

会 議 議 事 録

会議の 名 称	動物実験委員会	日 時	平成31年 3月22日(水)16:30~16:45
		場 所	大会議室
出席者	委員長：大江田臨床研究部長 出席者：富田薬理研究室長、山本生理研究室長、田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、梅村医療画像研究室長、安東再生医学研究室長、関外部委員 <div style="text-align: right;">(書記)庶務係長</div>		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<p>1. 動物実験委員会構成員について</p> <p>大江田委員長：平成31年度の動物実験委員会構成員は、平成30年度と同じく委員長は大江田臨床研究部長、副委員長は富田薬理研究室長、委員については、山本生理研究室長、田原免疫研究室長、須藤分子遺伝研究室長、梅村医療画像研究室長、安東再生医学研究室長とする。また、外部委員は引き続き、関あずさ国際部長（ハムリー株式会社所属）にお願いする。</p> <p>なお、規程では構成委員に統括診療部長が含まれているため、削除する。</p> <p>※了承。</p> <p>2. 動物実験計画書の審議について</p> <p>【生体内で部分凝集したαシヌクレインがもたらす神経細胞機能異常の解析】 (申請者：診療部長 山本 兼司)</p> <p>申請者説明：パーキンソン病 (PD) やレビー小体型認知症 (DLB) の病因と推察されている部分凝集したαシヌクレインが神経細胞の興奮性やシナプス伝達に生ずる影響を細胞電気生理学的に解析し、PDやDLBの病初期に生ずる神経機能異常を明らかにする。実験方法は、ラットおよびマウスをイソフルラン麻酔下（空気をキャリアガスとして濃度2.5%で吸入）にて断頭し大脳を取り出したうえで大脳皮質急性スライス標本を作成する。このスライスにO₂/co₂混合ガスをバブルしたリンゲル液を還流させ、大脳皮質錐体細胞にパッチクランプを施行し、パッチピペットからαシヌクレインを投与したうえで神経活動やチャンネル電位を記録する。これらのたんぱくが神経内のどのチャンネルや受容体に機能異常をおこすかを調べるため、これらのチャンネルや受容体を修飾するさまざまな薬剤を投与が必要である。また、チャンネルに対する修飾機構はマウスとラッ</p>			

トで異なるため、同じ実験をラットとマウス両種で施行する必要がある。
当課題は継続課題であり、引き続き承認をお願いしたい。

関外部委員：安楽死の方法が適切でない。申請用紙の「安楽死の方法」について、「麻酔薬等の使用」にチェックが入っているが、安楽死の場合は、生きたまま断頭をして、新鮮な状態で取り出すため、「麻酔下のおける断頭」等の適当なチェック欄の作成が必要である。

大江田委員長：事務局で指摘事項を修正後、申請者には、修正後の申請様式で再度提出をお願いする。当課題については、修正後の申請書の提出を以て承認とする。

3. その他について

関外部委員よりレクチャーを受ける（別添資料）。

以上